

平成 29(2017)年2月2日配信  
[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)  
広報担当:松本、長野  
TEL:075-771-6051(9:00~17:00) FAX:075-746-3366  
E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

報道関係者各位

**アルディッティ弦楽四重奏団 (音楽)**  
×  
**白井剛 (ダンス)**



**2017年6月23日(金)**  
**ロームシアター京都 サウスホール**

音楽の可能性を広げ続ける、世界最高峰の現代音楽の匠たち。  
コンテンポラリーダンスとの出会いによって生み出された、  
伝説の舞台空間が再び！

アルディッティ弦楽四重奏団は、1974年にアーヴィン・アルディッティが創設し、活動を開始。現代作品そして20世紀初期の作品の深い解釈と卓越した演奏は、世界各地に広く知られ、高い評価を確立しています。

前半は、ハンガリー人の作曲家クルタークの「マイクロリユード」から始まり、細川俊夫がアルディッティ弦楽四重奏団のために作曲した「沈黙の花」、彼らの原点の一つでもあるリゲティの「弦楽四重奏曲第2番」を演奏します。

後半は、これまでも共演を重ね、大好評を博してきた、ダンサー・振付家の白井剛とのコラボレーション。ダンスとの共演は、京都だけの特別プログラムです。

「アルディッティ弦楽四重奏団は、極めつきの現代音楽”大使”だ。彼らの手にかかると、今日の音楽が腑に落ちる。だからもっと聴きたくなるのだ」

ピエール・ブーレーズ

「アルディッティ弦楽四重奏団は20年も前から、日本で言うところの”人間国宝”であり、現代音楽界での偉業は他を圧倒している。音楽好きなら彼らを聴き逃すことなどありえない」

サイモン・ラトル

## <開催概要>

公演名：アルディッティ弦楽四重奏団（音楽）×白井剛（ダンス）

日時：2017年6月23日（金） 19:00開演（18:30開場）

会場：ロームシアター京都 サウスホール

料金：全席指定 一般 4,000円 ユース（25歳以下） 3,000円

※ユースチケットをご購入の方は、公演当日、証明書のご提示が必要です  
（未就学児童入場不可）

チケット一般発売開始：2017年2月18日（土）10:00～

会員先行発売※：2017年2月11日（土・祝）10:00～

※フレンズ会員（オンライン会員）、Club 会員（京都コンサートホール・ロームシアター京都共通の会員制度）・京響友の会会員

チケット取扱：

◆ロームシアター京都オンラインチケット（要事前登録・無料） <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

◆ロームシアター京都チケットカウンター（窓口・電話） TEL.075-746-3201  
（10:00～19:00、年中無休）

◆京都コンサートホールチケットカウンター（窓口・電話） TEL.075-711-3231  
（10:00～17:00、第1・3月曜休※祝日の場合は翌日）

◆チケットぴあ TEL.0570-02-9999 [Pコード:320-889] <http://t.pia.jp>

◆ローソンチケット TEL.0570-084-005 [Lコード:51352] <http://l-tike.com>  
TEL.0570-000-407（オペレーター対応 10:00～20:00）

公演のお問合せ：ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）／京都市

## <出演>

演奏：アルディッティ弦楽四重奏団

ダンス・構成・演出・美術・衣裳：白井剛

## <スタッフ>

照明：岩村原太

舞台監督：大久保歩 (KWAT)

## <演奏曲目>

【第1部】 アルディッティ弦楽四重奏団

クルターク：ミハイイ・アンドラーシュへのオマージュ～弦楽四重奏のための12のマイクロリユード

細川俊夫：沈黙の花

リゲティ：弦楽四重奏曲第2番

【第2部】 ダンスとの共演

クセナキス：ST4(1962)、Ikhoor for trio(1978)、Tetras(1983)

## — 白井剛(ダンス)との共演について —

これまでもアルディッティ弦楽四重奏団と共演を重ねてきた白井剛が、再び新しい試みに挑みます。今回の京都公演では、20世紀を代表する作曲家の一人であるヤニス・クセナキス作品と真っ向から取り組む企画となります。

数学、建築、そして作曲家として独自の世界を築いたクセナキス。日本では大阪万博での電子音楽や京都賞受賞で知られています。

アルディッティ弦楽四重奏団は、これまでにクセナキスの Tetras と Tetra の2つの弦楽四重奏曲を世界初演しています。今回の共演では、アルディッティ弦楽四重奏団から、クセナキスの作品の中から、Ikhoor for trio(1978)、ST4(1955)、Tetras(1983)が提案されました。

白井剛によって、クセナキスを導いた古代ギリシャのピタゴラス(数学)とアリストクセネス(音楽)の理論を舞台によみがえらせます。



過去の共演公演より ©池田たすく／金沢21世紀美術館

## <出演者プロフィール>

アルディッティ弦楽四重奏団 Arditti Quartet



©Astrid Karger

アーヴィン・アルディッティ(第1ヴァイオリン) アショット・サルキシヤン(第2ヴァイオリン)  
ラルフ・エーラーズ(ヴィオラ) ルーカス・フェルズ(チェロ)

1974年に創設。現代作品そして20世紀初期の作品の深い解釈と卓抜した演奏は、世界各地で高い評価を確立している。バートウィスル、ケージ、カーター、ファーニホウ、グバイドゥーリナ、ハーヴェイ、細川、クルターク、ラッヘンマン、リゲティ、リーム、シェルシ、シュトックハウゼン、クセナキスなどの作品を世界初演。日本人作曲家の作品も数多く録音・演奏。作曲家とともに作品の解釈を深めていく彼らの演奏を経て、それらの多くが今世紀の代表的なレパートリーとなっている。CDは200タイトルを超える。ナイーヴレーベルからは、話題沸騰したシュトックハウゼンの「ヘリコプター・クアルテット」など多数リリース。1999年には、エルンスト・フォン・シーメンス賞受賞。スイスのパウル・ザッヒャー財団には演奏記録が全て収められている。1988年に武満徹に招かれ初来日。以来、継続的に来日。ジョン・ケージの「アパートメントハウス 1776」を基に、コンテンポラリーダンスの白井剛と共演、「44のハーモニー～アパートメントハウス 1776より」を日本各地で公演、好評を得た。

白井 剛 Tsuyoshi Shirai



1998年 study of live works 発条トの設立に参加。06年よりカンパニーAbsTとして活動を開始。身体が、物質・音・光・空間・時間と交感し合う、繊細かつダイナミックなダンスとその存在性が評される。音楽家、美術家とのコラボレーションも積極的に行い、2008年アルディッティ弦楽四重奏とジョン・ケージ作品での共演は大きな話題となる。近作としては、ピアノと映像とのコラボレーション作品「ON-MYAKU2016 -see/do/be tone-」を2016年に東京と名古屋で発表。文化庁メディア芸術祭審査委員推薦作品にノミネートされるなど、映像と身体の可能性を模索した作品も創作している。